

Breakthrough No. 7

◆ 蛍光ペンで要所を塗っても、何も頭には入っとらん！

そうすることで、お前らは勉強した気になっているだけだ。

上記のセリフは『ドラゴン桜』という漫画の主人公・桜木健二の言葉です。『ドラゴン桜』は、偏差値30台の落ちこぼれを東大合格に導いていく話です。東大は、単に「日本一難しい大学」ではなく、「日本一夢と可能性が広がる大学」だと桜木先生は言っています。東大だけではなく、困難な道を進む方が可能性は広がります。現在の皆さんは、どうですか。イヤなことから逃れる道を探している人はいませんか。いい加減、腹をくくって本気で将来と向き合う覚悟をしましょう。勉強しているポーズだけでは、成績は向上しません。どうすれば、試験で正解にたどり着けるか本気で考えてください。11月5日(土)に模擬試験があります。それまでに、7月に行われた進研と河合塾の模擬試験の見直しを完璧にしておきましょう。

◆ 河合塾 全統高1模試が返ってきました

必ず、試験の見直しをすること。同じ問題は、二度と間違えないこと。

以下、模擬試験の「学習アドバイス」より

◆**英語** コミュニケーション英語の重視という観点から、大学入試の英語は大きく変化しつつある。とは言っても、長文読解は依然として入試の中心である。しかも問題の長文化傾向がどんどん進んでいる。この傾向に対処するためには「速読」が必要なのは言うまでもないが、速く読むための特別な方法があると勘違いしている諸君が多い。文構造や文法を意識しないで読めるだけの十分な文法力と語彙力があってはじめて、英文を英語のまま素早く読み取ることができる。2年生・3年生になって長文が読めないということがないよう、文法や文構造の基本を1年生のうちに徹底的に身につけよう。

◆**数学** 模試で大事なことは、「何ができたか」ではなく、「何ができなかったか」をしっかりと把握することである。これを、自分の弱点を知る絶好の「チャンス」と捉えて次につなげてほしい。できなかった部分を詳細に見ていけば、「あとほんの少しでできていたのに」と思えるところがたくさん出てくだろう。この「あとほんの少し」を見つけ、そこを埋めるにはどうすれば良かったのかをしっかりと考えて欲しい。

◆**国語** 平素から「他者の言葉を読む＝他者の声を聴く」ということに自覚的であってほしい。文章を読むと言うことは、筆者の主張や物語の筋を理解するということであり、それは筆者という「他者」の語りかけてくる言葉に耳を澄ますということにほかならない。また、設問に答えるという作業は、出題者という別の「他者」の声を聴き、その要求に応じるということでもあるのだ。とにかく、自分勝手な解釈や、自分勝手な答え方をしていたのでは、国語の試験では点数は取れない。筆者および出題者という二人の「他者」と向き合うこと、これが問題を解くことの意味である。

■進路講演会 9月9日(金)より

講師：杉浦唯理 氏(ベネッセコーポレーション)

★ 1年生2学期がなぜ大事なのか

＝1年生の秋、成績が変動しやすい。上にも下にも。その後はほとんど変わらない。1年の秋に成績をあげた人はそんなに下がらない。逆に1年の秋にサボった人はそのあと上がらない。1年の秋で、そのあとの成績が決まってしまう。

★ 高校生として一番大切なこと

＝高校1年生の受験勉強とは「学校の授業を大切にすること」。

★ 第一志望に合格できなかった先輩があげた失敗理由

＝第1位は苦手科目をそのままにしておいた。

☆ 提出物や課題など言われたことができるようになると偏差値48を越せる。

茨城大学合格レベルは偏差値58、筑波大学合格以上は偏差値68以上。

◆1・2年生、家庭学習の時間が全国の進学校と比べるとまだまだ足りない。スマホのゲームで時間を無駄にしてはいないか。分らないところをそのままにしてはいないか。「やる気」ということを少し考えて欲しい。やる気が出たからやるのではなく、やりはじめたからやる気が出る。(『脳は妙なクセがある』池谷裕二)

先生方からのお言葉(誰からの言葉が覚えていますか)

◆「自己指導能力」とは、その時、その場でどの様な行動が大切か、自分で決めて行動する能力のことです。

◆スランプの克服こそ、飛躍への充電期間。他人と過去は変えられないけれど、自分と未来は変えられる。

◆祖先から学びのに遅すぎるということはない。

■東大に行ったよ 楽しかったよ

7組担任 嵩 大樹

★東大にあたえられしもの

10月1日土曜日に、PTA大学研修会で東京大学本郷キャンパスに行きました。東大は、日本の大学で一番多く補助金が支給されている大学です。その資金を利用し、東大では他の大学で見られない施設や設備が整っています。敷地も広く、ゆったりとしたキャンパスは思索するには良い環境だと思いました。建造物は古き良き伝統が感じられる物が多く、改修工事を行いながら、伝統的な外観を尊重したキャンパスになっています。図書館の蔵書数は125万冊と茨城県立図書館の86万5千冊を優に超えています。やはり、一流の学生には一流の施設、設備が与えられていると思いました。大学に行ってやりたいことをやるには、一流の大学に入るべし！

★東大生は元から天才なのか？

結論から言うと、東大生は天才ではありません。秀才なのです。案内してくれた東大生は、話をしてみると普通の大学生でした。東大生と聴くと「頭がいい」「きっと天才なんだ」「異世界に住む人」というようなイメージを持つかも知れませんが、東大生も1人の一般人です。異なる点を挙げるならば、「努力を惜しまず勉強する人」、「集中力の高い人」なのだと思います。そう、東大生は元から頭がいいのではなく、努力家なのです。

案内してくれた東大生からは、受験期になれば毎日10時間勉強したと聞きました。皆さんも毎日集中して10時間勉強すれば、東大も夢ではない！かもしれません…

